これからの精神科に求められるサービス

こんな職員が必要！

澤　孝　　広田 和子

初夏のある日、横浜市郊外の閑静な住宅街にある広田氏の自宅を、澤氏が訪れた。午前中晴天の続いた広田氏の結論で夜遅の対談となったが、夜が更けるほどに2人の舌鋒は鋭く、止まることを知らない。縦横無尽に語り尽くしたこれからの精神科医療とは――。

● イタリア視察で落ちたウロコ…

広田　先生はなぜ精神科医になろうと思ったんですか？

澤　僕の場合はたまたま父親が精神科医で病院を経営していたから、気がついたらこの道に進んでいたという感じですね。家が病院といっても最初のころ父は公立病院の勤務医で、家の座敷や応接間にベッドを持ち込んで始めたから、病院というより医療つき下宿っていう感じでしたけど。

広田　病院を継いだのはいつごろですか？

澤　それがちょうど精神保健法（）ができた1987年なんですよ。これから精神病院がどうなるか、病院そのものをどう運営していいかもわからない。そういう時に、大熊一夫（）さんが精神医療従事者に、デンマークとイタリアを視察に行きませんかって呼びかけたんです。それが87年の8月か9月。その12月には院長になることが決まっていたから、とにかく見に行こうと思って。

広田　どうでした？

澤　いやあ、目が"点"になりましたよ。

広田　ウロコが落ちたとか？

澤　ウロコなんてかわいいもんじゃない（笑）。行きの飛行機で資料文献読んだら、とにかく入院させない、病床を新たに作らないばかりかどんどん減っているってあったけど、半信半疑で。ところが実際視察してみると、日本だったら入院しているような患者が共同住居でちゃんと生活している。ちょうどうちの病棟を新しくしようかと思っていたところで、急遽イタリアから国際電話して「病棟作るの、やめようか」。

広田　これからはイタリア方式でいくんだって（笑）。もしかして病棟を全面閉鎖することも考えました？

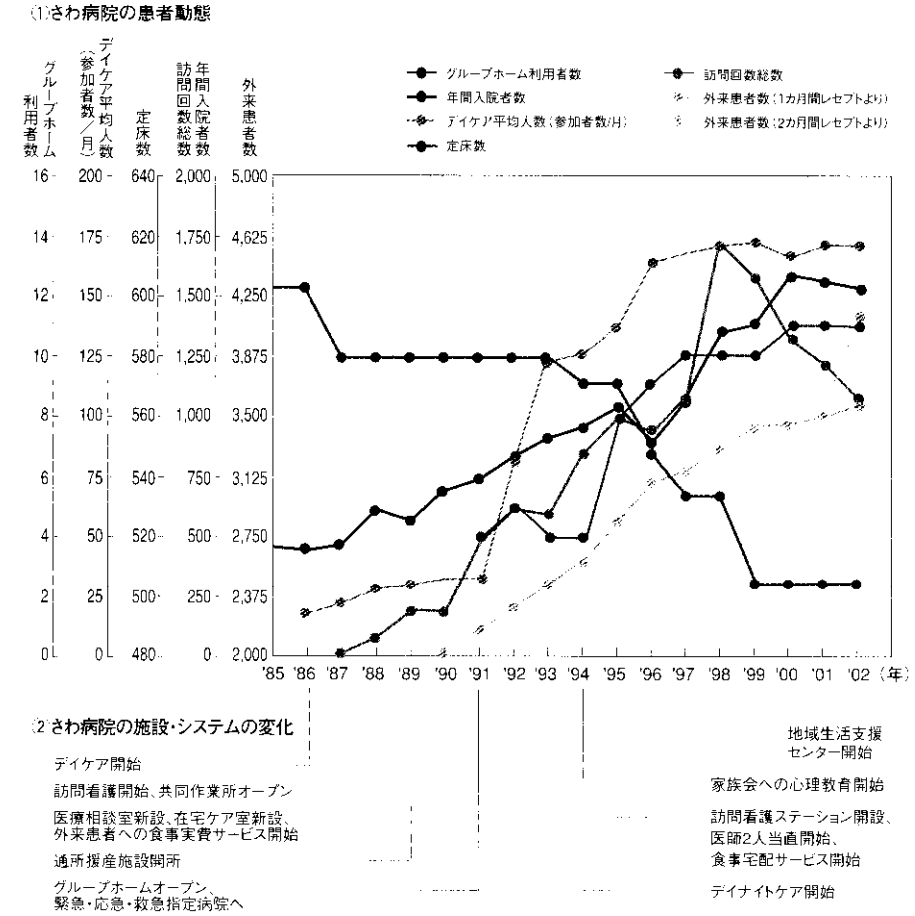
澤　そうそう。全員退院させてもいいんじゃないかって考えたんだけど、その当時は退院患者を受け入れる器がなかったでしょ。だから悩んだ末、結局は建て直しました。

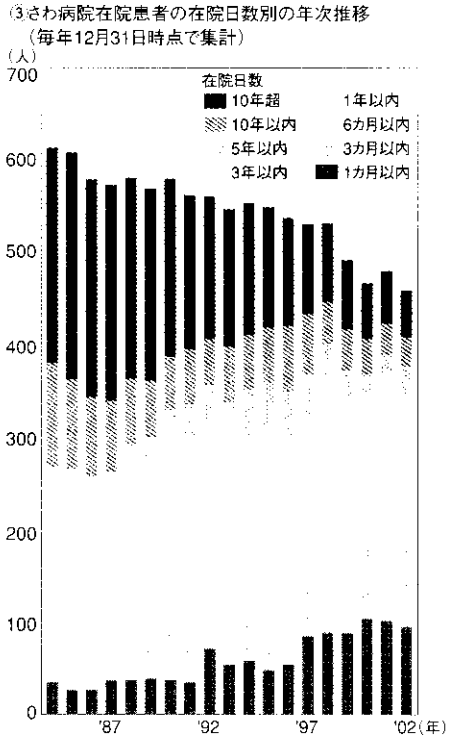
広田　精神病院といえば日本では長期入院患者が多いじゃないですか。先生のところはどうですか？

澤　もともと長期入院させる感覚はないですね。若い頃アルバイトしていた病院で、閉鎖病棟の患者を退院させようとしたら院長から電話がきて「困るよ、ルールを守ってくれなきゃ」。開放病棟に移してから退院させる暗黙の院内ルールがあったらしいんだけど、「それなら辞めさせてもらう」って啖呵切ったら、翌日もう1回電話がきて「じゃあ辞めてもらいます」。

広田　そのあと先生も病院経営者になったわけでしょ。若いアルバイト医師に向かって「院内ルールを守れ」と言った院長の気持ちが今ならわかります？　昔、「患者は固定資産だ」って豪語した大物がいたって聞きましたけど。ベッドがあるから

図1　さわ病院の施設・システムの変化と患者動態





①のグラフ上では、訪問回数総数は98年以降減少しているようにみえるが、これは訪問看護ステーションの対象から福祉ホーム利用者がはずれたことによるものである。デイケア参加者数、外来患者数、年間入院患者数が増加しているのに対し、長期入院患者は年々減少し（③）、平均在院日数は短縮している。このため定床数の削減が可能となった。

（さわ病院調べ）

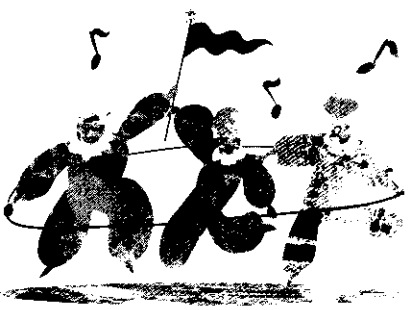
こそ患者が必要なんだって。

澤　いや、そんなの全然わかりませんよ。**確かに空きベッドが増えると経営者としては不安になる。でもその分、外来患者数が増えたり、救急が増えたり、どこかで帳尻は合うはずです。**開放病棟にいて症状は安定していて、毎日自分で買い物に行けるし作業療法もきちんとやっていますっていう人が、何年も入院しているのは不自然でしょ（**図1、2**）。

広田　先生の病院では救急も受け入れているんですね。残念ながら神奈川の精神科救急体制は遅れていて、ハード救急　が先行してソフト救急　24時間システムは土日のみ。

澤　大阪はソフト救急と同時でしたね。だから任意入院が多いんですよ。いつもは通院で大丈夫な患者さんでも、調子が悪くなると明日までもたないからって入院してくる。

広田　そういうのって大事。それが本当の救急でしょう。



澤　そう。それにしてもここ数年で精神科クリニックが増えて、普段はそういうところに受診している患者さんが夜間救急で来るケースも増えていますね。

広田　クリニックが増えると、患者側としては敷居が低くなる感じで受診しやすくなるから必ずしも悪いことじゃないけど、困った時、対応できない場合もある。私の親しいあるクリニックの先生は、「緊急用に」って患者さん達に自宅の電話番号を知らせています。それと、気軽に往診してくれる。

澤　それはたいしたもんだ。開院当初は張り切っているから、頑張ってやる人も多いんだけど、だんだんエネルギーが切れてやめる人もいるからねえ。最後までやる人は立派だ。

広田　私は、精神保健福祉法34条の移送は反対ですが、受診援助の部分までが大事だと考えているんです。受診援助のために家に踏み込めるでしょ？

澤　いや、いくら34条があっても踏み込めませんよ。家族が